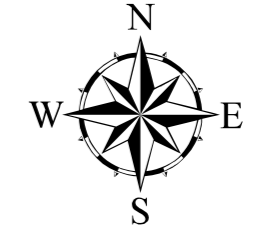


下津付近 津波防災情報図(引潮図)

計算条件：最低水面

隆起量：平均 -25cm(-28cm ~ -22cm)

・津波は、震源の位置、規模、細かな地形の影響などにより、試算した津波と異なることがあり、過去には、今回の津波の試算より大きな津波が来たことがある。



1:25,000

座標系：メルカトル図法
測地系：世界測地系(WGS84)

凡例

- 露出域
- 経時変化図出力点

最大水位低下

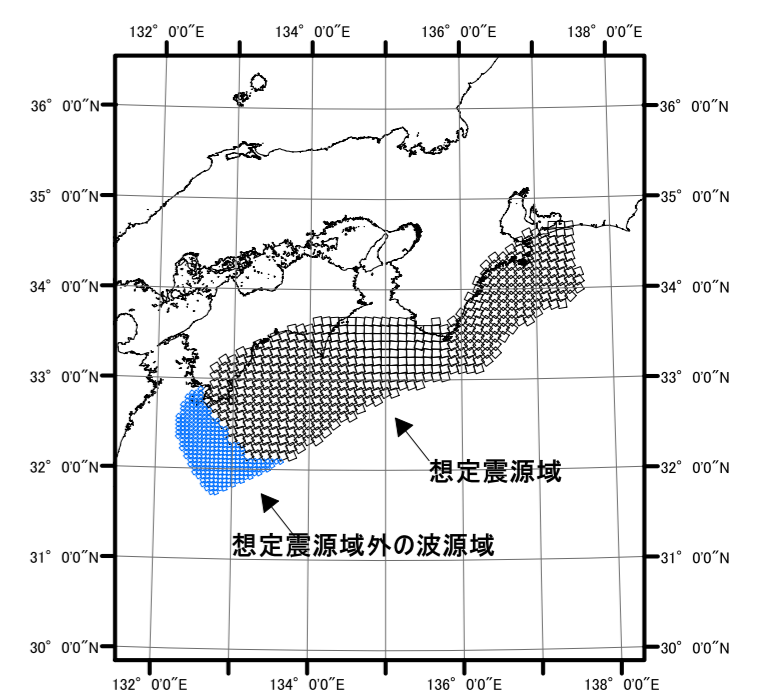
- 500~最大530cm
- 450~500cm
- 400~450cm
- 350~400cm
- 300~350cm
- 250~300cm
- 200~250cm
- 150~200cm
- 100~150cm
- 50~100cm
- 50cm未満

引潮時最大流 [knot]

- 6 knot
- 4 knot
- 2 knot

・海岸構造物は、地震・津波の影響を受けないものとして計算している。

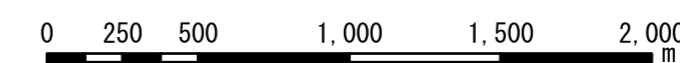
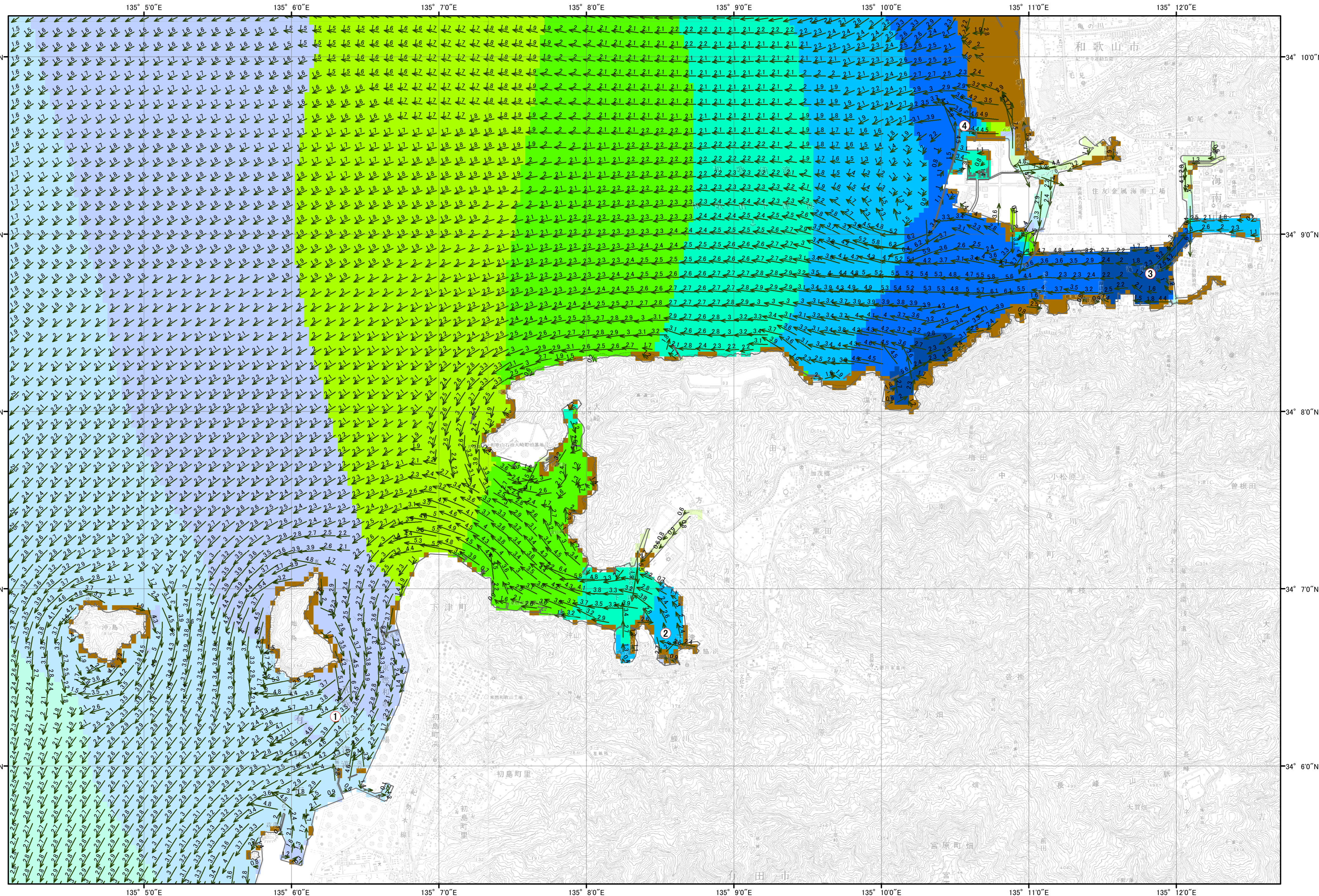
想定震源域と波源域の位置



マクロ的に見たパラメータ	南海地震	東南海地震
断層面積 S (km ²)	約 36,500	約 14,500
地震モーメント Mo (N·m)	8.34 X 10 ²¹	2.15 X 10 ²¹
平均すべり量 D (m)	5.70	3.63
モーメントマグニチュード Mw	8.55	8.15

・本図は、中央防災会議「東南海・南海地震等に関する専門調査会」で公表された断層モデル及び断層パラメータを使用した。

作成機関：海上保安庁
作成年月：平成16年 3月 (初版)



- ・試算に使用したデータは、海上保安庁海洋情報部のJ-EGG500、J-BIRD、沿岸の海の基本図地形データ、及び海図を作成する際の基礎データを使用した。
- ・この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。
(承認番号 平15総務、第673号)
- ・この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。
(承認番号 平15総使、第672号)

経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。

